【公開セミナー】経済均衡モデルによる公共事業評価 －地域の変化を測る－

主催：運輸政策研究所
共催：（財）計量計画研究所、（株）価値総合研究所
（株）三菱総合研究所、（株）UFJ 総合研究所

日時：2005 年 9 月 13 日（火）
場所：虎ノ門パストラル

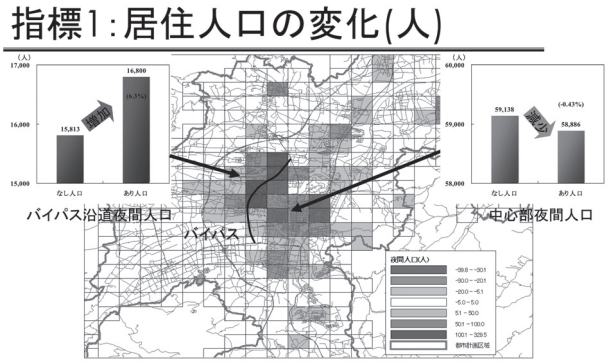
公共事業評価については、近年、施設ごとに評価マニュアルが作成され、定量的な評価が普及しています。しかし、大規模な公共事業によって広域に渡ってもたらされる経済効果や、産業構造・人口分布への影響、便益の最終的な帰着先等については、既存のマニュアルで計測することはできません。このような効果・影響を計測可能な手法として、経済均衡モデル（応用一般均衡モデル、応用都市経済モデル等）があります。わが国では、経済均衡モデルの実際の公共事業評価への適用事例が蓄積されつつあり、内外から高い評価を得ています。

本セミナーは、経済均衡モデルの実務上における更なる普及・発展を目指し、中央省庁職員、地方自治体職員、シンクタンク・コンサルタント実務家、大学関係研究者等を受講対象として、運輸政策研究所の主催により開催されたものです。当日は、全国各地から約 200 名の参加者があり、午前のレクチャーセッション、午後のコンピュータセッションともに大盛況でした。

レクチャーセッションでは、経済均衡モデルに共通する基本的な特徴、作成方法、活用方法等について、政策研究大学院大学森地茂教授（運輸政策研究所長）、東京大学上田孝行教授、東北大学森杉壽芳教授他から概説していただきました。コンピュータセッションでは、経済均衡モデルによる公共事業評価や政策評価に実績のある多数のチームがそれぞれブースを出展して、各自のモデルの特徴と適用事例について紹介しました。

当研究所からは 2 ブースを出展し、佐藤徹治が「道路整備の長期的効果の計測」、樋野誠一が「地方都市におけるバイパス道路整備の評価」について報告しました。2 つのブースともに、多くの方にご来場いただき、活発な議論が展開されました。

コンピュータセッションの様子



出典：「地方都市におけるバイパス道路整備の評価」
経済均衡モデルによるアウトプットの例

（経済社会研究室　佐藤徹治）